

2018冬 公共交通フォーラム

「横浜郊外部における移動の足を考える」

横浜の郊外部には大規模団地が多くあり、その大部分は昭和40年代に建てられましたが、現在では入居者の高齢化と生活様式の変化に伴い、多様な移動の足が求められています。また市内の地形の特徴として丘陵地が多く、自宅から駅やバス停まで高低差のある地域が多く存在し、これらの特性を踏まえた対応も必要となっています。

今回のフォーラムでは、市内の郊外部が抱える課題とその解決に向け、またより質の高い生活とは何かについて皆で考える機会とします。

基調講演では、地域交通の現状と高齢化に伴う移動の足に関する様々な課題、交通の果たす役割や意義について、各地の事例を交えて語っていただきます。

また事例報告として、大規模団地の現状と再生に向けた取り組みを紹介し、さらには既存のバス路線がない地域で、住民の力により生活に密着した移動手段を確保しようとする取り組みと、この活動を行政が支援する仕組みを紹介し、

日時：平成30年1月27日（土）14:00～17:00（開場 13:30）

会場：横浜みなと博物館 訓練センター 第1教室

＜JR根岸線・市営地下鉄ブルーライン桜木町駅下車 徒歩5分＞

＜みなとみらい線みなとみらい駅または馬車道駅下車 徒歩各5分＞

- 基調講演 板谷 和也氏（流通経済大学経済学部教授）
「集約と共助で切り開くこれからの交通」
- 話題提供 古川 洋（横浜の公共交通活性化をめざす会 代表）「横浜郊外部の今と身近な“足”」
- 事例報告 ① ＜郊外大規模団地関係者から＞
山岸 弘樹氏（若葉台連合自治会 会長 <横浜市旭区>）
- ② ＜地域交通サポート事業担当部署から＞
寺島 博明氏（横浜市道路局計画調整部企画課 交通計画担当係長）
- ③ ＜地域交通サポート事業実施地区関係者から＞
山崎 幸雄氏（片吹団地自治会 会長 <横浜市金沢区>）



（多くのバス路線が乗り入れる若葉台中央）



（片吹地区へ向かう新たな路線バス 能見台駅）

＜参加費＞ 資料代 1,000円（学生 500円） 事前の申込み不要

問合せ先：横浜の公共交通活性化をめざす会 小田部（090-6544-1422）

主催：横浜の公共交通活性化をめざす会 共催：横浜にLRTを走らせる会

後援：国土交通省関東運輸局 横浜市都市整備局